ベトナムの技能実習生教育機関におけるオンライン日本語教師教育

西谷まり（一橋大学）

Online Japanese language teacher training at a technical intern training institution in Vietnam

Mari NISHITANI, Hitotsubashi University

要旨：技能実習生教育機関では元技能実習生が日本語教育を担っていることが多い。ベトナムの技能実習生教育機関で日本語を教える元技能実習生 21 名を対象に行った調査結果から、日本語の上達を来日目的の一つと考えていた調査対象者は、日本人との交流と日本語の自律的学習を積極的に行い、日本語を習得、帰国後に日本語教師になっていることがわかった。しかし、日本語及び日本語教育方法の向上には課題があることも明らかになった。本発表では、ベトナムの技能実習生教育機関で日本語を教えているベトナム人教員を対象にオンラインで行った日本語教師教育及び、その後に継続中の「雑談ペアプロジェクト」の内容とその効果について報告する。

キーワード：ベトナム、技能実習生、オンライン、雑談、不安、失敗

1. はじめに

国際交流基金による日本語教育調査（2018 年 5 月～2019 年 3 月）によれば、ベトナムの日本語学習者は 174,521 人であり、教員数は 1,795 人となっている。最も増加率が高かったのは、国全体の学習者数の約 3 分の 2 を占める学校教育以外のカテゴリであるとされる。以前は日本語教育が実施されていなかった地方部でも技能実習・研修候補者向けの予備教育を行う機関などが確認されており、日本からベトナムに帰国した元技能実習生が地元で機関を設立するケースもあると述べられている。

1993 年「技能実習制度に係る出入国管理上の取扱いに関する指針」(平成 5 年法務省告示第 141 号)により、在留資格「特定活動」の一類型として技能実習制度が創設された。2016 年におけるベトナムからの技能実習生の数は 4 万人を超え、それまで最多であった中国を抜いて国別では初めて第 1 位となった。

技能実習制度は、研修終了後、研修で修得した技術等をよりスキルアップできるようにすることが前提となっている。しかし、帰国後に日本で習得した技術を生かして働く者は数少ない。一方、日本滞在中に日本語能力を高め、帰国後に技能実習生送り出し機関で日本語教育に携わる者は多く、技能実習生送り出し機関のほとんどはこうした元技能実習生が日本語教育を担っている。元技能実習生日本語教師らが実際に日本で従事していた仕事は、帰国後にステップアップする技能にはつながっていない。そんななかで、実習生教育機関の日本語教師、営業、事務といった仕事はある程度「いい仕事」と考えられている。

自らが日本語を勉強した教育機関に戻る場合も多いが、まったく違う会社で働く場合もある。彼らは異口同音に「日本語を教えることが楽しい」、「教師という仕事は尊敬されるいい仕事だ」と語っている。

発表者は 1998 年からベトナムの日本語教育・日本語教師教育に携わっている。2019 年４月から 2020 年 1 月にかけて、研究休暇でベトナムに滞在し、技能実習生教育機関３社においてベトナム人日本語教師の養成を担当し、そのうち２社でベトナム人元技能実習生日本語教師に対する調査を行った。本発表では、その調査結果及び技能実習生教育機関のベトナム人教師に対するオンライン研修、そして、現在も継続中である「雑談ペアプロジェクト」について報告する。

2. 技能実習生教育機関の現状とコロナ禍におけるオンライン教育の普及

発表者は日本語を教える元技能実習生 21 名を対象に 20 項目の質問紙調査を行った（西谷 2021）。調査結果から、日本語の上達を来日目的の一つと考えていた調査対象者は、日本人との交流と日本語の自律的学習を積極的に行い、日本語を習得、帰国後に日本語教師になった流れが見えてくる。元技能実習生日本語教師は、日本での仕事と生活を楽しみ、日本の仕事のやり方を習得し、帰国後は「日本に行ってよかった」「技能実習生制度は良い制度だ」と結論づけていることが明らかになった。

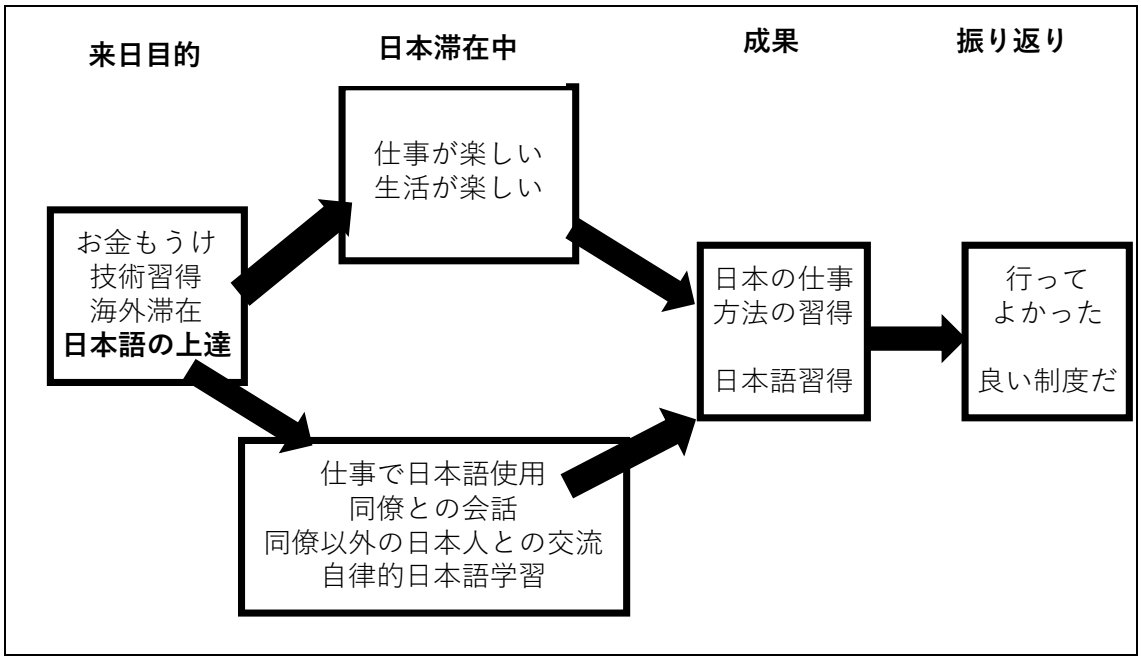

図１　調査対象者の来日から帰国までのプロセス

しかし、日本語教師としての職場への定着と日本語及び日本語教育方法の向上には課題があることも明らかになった。

3　オンライン日本語教師研修

2020 年度はコロナ禍の影響で、発表者の勤務先の大学では全面的にオンライン授業が行われ、2021 年度には対面とオンラインを同時に行うハイフレックス授業が行われている。2020 年度にオンライン授業を受講した留学生を対象に行った調査では、留学生たちはオンライン授業を楽しみ、満足し、将来役に立つと感じている傾向が高いことが明らかになった（西谷 2020）。オンライン授業のメリットは（1）移動の時間がなく、時間を有効に活用できること（2）何度も繰り返し視聴できる、その場でオンライン辞書などを活用できること（3）ブレイクアウトセッション、画面共有などのツールが新鮮で有効であること（4）日本語や日本の授業のやり方に関する不安が軽減されることであった。一方、オンライン授業のデメリットとしては、インターネット通信に関連したトラブル、クラスメートや教員とのコミュニケーション不足に関する問題が挙げられた。

日本語教師教育に関して、発表者は 2020 年度に大学院日本語教育専攻の学生を対象に、オンラインで模擬教育実習の指導を行った。受講生は 9 名であり、授業後のアンケートから、オンラインで行う模擬授業は一定の効果が認められた。

発表者は、2021 年 5 月に技能実習生教育機関からの依頼を受け、オンライン日本語教師研修会を開催した。機関側の要望を受けて、オンライン授業の改善方法を中心に 2 時間の研修を行った。研修に先立って、「オンライン授業で困ったこと、失敗したこと、うまくいったこと」についての調査に答えてもらった。研修受講者はベトナム人教師 6 人と日本人教師 2 人の合計 8 人であり、全員から調査票の回答を得た。

困ったこと・失敗したこととして、共通に出てきたものは「通信不安定」のために、指導が中断したり、効果的に実行できなくなったりするという問題である。他にも「テストの実施が難しい」「学習者の状況を把握できない」「教室のような活動ができないので授業が単調」といった問題点が挙げられている。逆にうまくいったことについて共通に出てきたものは「映像、音声、ビデオを使用して、学習者に鮮やかな内容を伝えることができる。」「学習資料が保存されていて、学習者はいつでも、どこでも簡単に復習できる。」という点である。また、「普段の授業では挙手して発言するのが苦手だった実習生が積極的に発言できるようになった」という意見もあった。

研修はまず、事前調査の内容を全員で確認したあとに、2 人のベトナム人教師が模擬授業を行い、発表者が質問・コメントをする形で進めた。活動や練習の部分が不足していることがわかったため、発表者が用意した資料を用いて、ブレイクアウトルームを使ったペアワーク、チャットを利用した活動などを行った。次回の研修では、オンライン授業において行う多様な活動について紹介、実践をしていきたいと考えている。

4　雑談ペアプロジェクト

研究休暇中に行った、対面での教師研修では「雑談ができるようになりたい」という声が多く聞かれた。実際、「日々の私たちの会話を注意深く観察してみれば、特定の課題の

遂行を目的としていない単なるおしゃべりが大部分を占めている（西郷ほか 2018）」。2021 年に行われた日本語教育学会春季大会の一般公開プログラムでは「技能実習生の仕事中の事故が少ないのは、普段から雑談ができている職場だ」という指摘があった。これは、雑談ができる人間関係を生み出すことが、ものごとを円滑に進めるために重要であることを示している。ここで言う雑談とは、特にテーマを定めないで気楽に会話することを指す。世間話と言い換えることもできる。塩入（2021）は、技能実習生と大学生グループが定期的に会話する機会を提供することによって、会話のできる日本人の存在は言語能力向上に有効であること、日本の社会や文化への理解が進むことを報告している。

今回のオンライン研修を受講したベトナム人教師の中から、経験の比較的浅い 3 人が日本人との雑談を希望したため、「雑談ペアプロジェクト」をスタートすることにした。日本人とベトナム人の概要は表 1 に記す。日本人は筆者及び筆者の親しい友人 3 人である。ペアのマッチングは性別、日本人各人の外国人との接触経験などを考慮して発表者が行った。雑談のツールは zoom ミーティングか LINE テレビ電話を用いた。1 回の雑談時間は 30 分程度とした。

表 1　雑談ペア参加者の概要

国籍	名前	性別	年齢	日本語力（帰国時・現在）	技能実習内容	日本語教育歴
ベトナム	A	女性	27 歳	N3 レベル・N2 合格	プラスチック成形	2 年
	B	男性	31 歳	N3 レベル・N2 合格	溶接	4 年
	C	男性	27 歳	N3 レベル・N2 合格	シート組み立て	2 年
				背景		
日本	D	男性	61 歳	定年退職後研修講師、海外駐在出張経験豊富		
	E	女性	61 歳	不動産業、アメリカ滞在経験あり		
	F	男性	61 歳	定年退職後無職、ベトナム駐在 6 年間		

第 1 回の雑談日時を決めるために、発表者 3 組の LINE グループを作った。初回の雑談が円滑に始められるかどうかには不安があったが、すべてのペアがそれぞれ約束した時間に雑談を始めることができ、好調な滑り出しであった。初回雑談修了後に、ベトナム人教師からは「今日は本当に有り難うございました。楽しかったです。又来週話しましょう。」というお礼のメッセージが、日本人からは「ご自分から積極的によく話していました。私に質問もしてくれて。お互い黙ってしまうような時間は、できないかなあという印象。」といったメッセージが届いた。

E 氏から「技能実習生と日本語能力試験ついて、大まかな概要が知りたい」という要望があり、D 氏、F 氏含めて参考資料を送付した。技能実習生については、制度の概要、出

国するまでの日本語教育と教育機関に支払う手数料、来日後の労働環境等を、日本語能力試験[1]については、N1～N5 に合格するのに必要な時間や可能な言語技能の説明を行った。さらには、技能実習生は介護については N3 合格が条件であるが、その他の技能実習生は N5，N4 レベルで出国することなどの情報を提供した。

5　不安と失敗に着目

発表者は非母語話者日本語教師の不安の実態を明らかにし、不安と失敗に着目した指導方法を開発し効果測定を行ってきた（西谷 2012、2013、2014）。不安そのものを変化させることは難しいが、 失敗の効用認識にアプローチすることで学習者の意識を変化させることができることが明らかになっている。失敗から学ぶ方略を指導すると、不安があってもリスクを恐れずに使ってみようと考え、失敗した場合にはその場で間違いについて確認し、人間関係を悪くする可能性を最小限に抑える方略を使用できるようになる。この不安と失敗に着目した指導方法を今回の「雑談ペアプロジェクト」にも適用する。

雑談 1 回目終了後にベトナム人日本語教師に対して 3 つの質問をした。①「日本語の雑談、おしゃべりをするときに不安なことは何ですか」②「日本語の雑談、おしゃべりがうまくいかない時、その原因は何だと思いますか」③「間違った日本語はなおしてほしいですか」である。それぞれの質問に対する回答を以下に挙げる。

① 長い文を話す時に相手に充分に伝えられない。日本語の間違い。

② 言葉や文法をまだ身に付けていないから。日本語に接する環境が少ないため。会話力があまり高くないため。語彙が少ないから。

③ 「全部直してもらいたい」と 3 人が回答している。

雑談を３か月程度継続した後で、「聞き返し」「時間稼ぎ」「話題転換」といった雑談ストラテジーの知識提供と実践も同時に行う予定である。具体的には、「わかったふり」をして、会話の遂行がとん挫した場合を例に、自分の話が伝わっているかどうか不安な時にどのような日本語で確認するか、といったことを実際の雑談会話の録音を材料に検討する。また、ベトナム人教師は「間違いは全部直してほしい」と希望しているが、実際の会話の途中で、すべての間違いを直していては、会話がスムーズに進まない。日本語を少々間違っても大丈夫である場合と大きな誤解につながるので修正が必要な場合を、日本語会話だけでなく、母語での会話と比較検討するといったことも有効であろう。

---

[1] N1：幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。学習時間 900 時間程度。N2：日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。学習時間 600 時間程度。N3：日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。N4：基本的な日本語を理解することができる。学習時間 300 時間程度 N5：基本的な日本語をある程度理解することができる。学習時間 150 時間程度。

6　おわりに

ベトナムにおける日本語学習者及びベトナム人日本語教師の多くが、技能実習生教育機関に属していることは日本国内ではあまり知られていない。帰国した元技能実習生が日本語教師として次の実習生を教えるという構図は、今後も維持される可能性が高い。実際に技能実習生の経験がある人々が送り出し側で日本語教育に携わることで、送り出し体制の改善、また、送り出し人材の質的向上に貢献しうると考えられる。技能実習生教育機関の日本語教師の質を高めることは喫緊の課題である。現在継続中の「雑談ペアプロジェクト」の成果を検証し、効果的な教師教育の方法を検討していきたい。

参考文献

塩入須美．2021．大学生による外国人技能実習生パートナー制度の試み：ニーズと地域文化発見としての異文化交流．異文化間教育学会発表抄録．56-57.

西郷英樹・清水崇文．2018.『日本語会話力がグーンとアップする雑談指導のススメ』凡人社.

西谷まり.2012.「非母語話者日本語教師志望者の教授不安」.日本教育研究国際大会（名古屋大学）.

西谷まり.2013.「非母語話者の日本語教育実習における効果的フィードバック」.日本語教育学会東北地区研究集会.

西谷まり.2014.「非母語話者の日本語教師教を養成する際の不安と失敗に着目したフィードバック」.日本教育工学会研究報告会（愛知工業大学）. JSET 14-1.57-62.

西谷まり.2020.『ARCS モデルに基づいたオンライン授業に対する評価』.「一橋大学国際教育交流センター紀要」.第 2 号．93-102.

西谷まり.2021.『ベトナムにおける元技能実習生日本語教師の現状と問題点』.「一橋大学国際教育交流センター紀要」.第 3 号.（7 月末発刊予定のためページ未定）.

平成 29 年度日本語教育実態調査の結果
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/nihongo/nihongo_87/pdf/r1408014_11.pdf　2021 年 6 月 4 日閲覧.

日本語能力試験　JLPT　https://www.jlpt.jp/　2021 年 6 月 4 日閲覧.